

公益社団法人日本コンクリート工学会
北海道支部 第34回支部総会(活動報告会)

1. 報告

- 1号. 令和7年度 事業報告
- 2号. 令和7年度 決算報告
- 3号. 令和7年度 研究委員会報告
 - 時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会(第2期)【終了】
 - 北海道の火山堆積物の利用研究委員会【終了】
 - 破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会【終了】
 - 北海道におけるコンクリートの化学的侵食研究委員会【継続】
- 4号. 令和7年度 特別委員会報告
 - インターネット委員会【継続】
 - JCI北海道支部若手会運営委員会【継続】
 - 将来構想具体化検討委員会【継続】
 - コンクリート工学年次大会2027(札幌)準備委員会【終了】
- 5号. 令和8年度 事業計画報告
 - 研究委員会報告
 - 北海道におけるコンクリートの化学的侵食研究委員会【継続】
 - 寒冷地環境下における高炉スラグ系セメントの化学的活性化に関する調査研究委員会【新規】
 - 特別委員会報告
 - インターネット委員会【継続】
 - JCI北海道支部若手会運営委員会【継続】
 - 将来構想具体化検討委員会【継続】
- 6号. 令和8年度 収支予算報告
- 7号. 令和8年度 支部執行委員会構成報告
- 8号. 支部顧問報告

2. 各賞選考結果報告

- 令和7年度 支部優秀学生賞
- 令和7年度 支部功績賞

3. 研究委員会報告

- ・時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会(第2期)
- ・北海道の火山堆積物の利用研究委員会
- ・破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会

1. 報告

1号. 令和7年度 事業報告

1. 第33回支部総会(活動報告会)

日 時：令和7年5月30日(金) 15:00~17:00

出席者：36名(集会参加・対面開催)

(1) 支部活動報告

《令和7年度》・事業及び決算・研究委員会・特別委員会

《令和8年度》・事業計画及び収支予算・支部執行部構成・支部顧問

(2) 優秀学生賞選考結果報告

(3) 特別講演「フォトグラメトリと FEM の統合による構造的評価」

宮森 保紀 先生(北海道大学 教授)

2. 支部幹部会

(1) 第1回支部幹部会

日 時：令和7年4月11日(金) 14:00~15:20

方 法：ハイブリッド形式(対面・オンライン)

出席者：9名(委任状2名), オブザーバー1名

議 事：

報告事項

1. 前回議事録確認
2. 本部定例理事会報告

審議事項

1. 令和7年度幹事業務担当
2. 支部総会(活動報告会)担当
3. 令和7年度支部執行幹部会・執行委員会開催日程
4. 支部顧問
5. 第33回支部総会(活動報告会)活動報告書

(2) 第2回支部幹部会

日 時：令和7年7月8日(火) 15:00~16:00

方 法：ハイブリッド形式(対面・オンライン)

出席者：9名(委任状2名), オブザーバー1名

議 事：

報告事項

1. 前回議事録確認
2. 本部定例理事会報告(5月, 6月)

審議事項

1. 令和7年度 JCI 北海道支部若手会 10周年記念式典および見学会
2. コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会
3. コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座

(3) 第3回支部幹部会

日 時：令和7年10月8日(水) 15:00~16:00

方 法：ハイブリッド形式(対面・オンライン)

出席者：11名(委任状4名), オブザーバー1名

議 事：

報告事項

1. 前回議事録確認
2. 本部定例理事会（7月，8月）・支部長会議報告

審議事項

1. 令和8年支部研究委員会の設置と研究課題の募集（案）
2. 支部優秀学生賞選考委員会の設置
3. 支部功績賞選考委員会の設置

(4) 第4回支部幹部会

日時：令和7年12月16日(火)15:00～16:00

方法：ハイブリッド形式（対面・オンライン）

出席者：11名（委任状1名），オブザーバー1名

議事：

報告事項

1. 前回議事録確認

審議事項

1. 支部執行委員会体制
2. コンクリート診断士，コンクリート技士・主任技士試験統括管理者の推薦
3. 令和8年度支部事業計画（案）
4. 令和8年度支部予算（案）
5. 第34回支部総会（活動報告会）計画

(5) 第5回支部幹部会

日時：令和8年2月26日(木)15:00～16:50

方法：ハイブリッド形式（対面・オンライン）

出席者：11名，（委任状1名），オブザーバー1名

議事：

報告事項

1. 前回議事録確認

審議事項

1. 令和8年度新規研究委員会設置
2. 支部執行部委員候補選定
3. 支部執行委員交代
4. 令和7年度収支決算・令和8年度予算計画（案）
5. 第34回支部総会（活動報告会）実施について

3. 支部執行委員会

(1) 第1回支部執行委員会

日時：令和7年4月11日(金)15:30～17:00

方法：ハイブリッド形式（対面・オンライン）

出席者：34名（委任状7名），オブザーバー2名

議事：

報告事項

1. 前回議事録確認
2. 本部定例理事会報告
3. 令和6年度各研究委員会報告
4. 令和6年度各特別委員会報告
5. 令和6年度優秀学生賞選考結果報告

6. 令和7年度支部執行委員会開催日程(案)

審議事項

1. 優秀学生賞応募難形
2. 令和6年度支部功績賞授与
3. 第33回支部総会(活動報告会)活動報告書

(2) 第2回支部執行委員会

日時: 令和7年7月8日(火) 16:00~17:00

方法: ハイブリッド形式(対面・オンライン)

出席者: 28名(委任状9名), オブザーバー1名

議事:

報告事項

1. 前回議事録確認
2. 本部定例理事会報告(5月, 6月)
3. 令和7年度各研究委員会報告
4. 令和7年度各特別委員会報告
5. 第33回支部総会(活動報告会)報告
6. 令和7年度支部執行委員会開催日程

審議事項

1. コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座
2. コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会

(3) 第3回支部執行委員会

日時: 令和7年10月8日(水)16:00~17:00

方法: ハイブリッド形式(対面・オンライン)

出席者: 31名(委任状10名), オブザーバー1名

議事:

報告事項

1. 前回議事録確認
2. 本部定例理事会報告(7月, 8月)・支部長会議
3. 令和7年度各研究委員会報告
4. 令和7年度各特別委員会報告
5. コンクリート診断士試験実施報告

審議事項

1. 令和8年度支部研究委員会設置と研究課題募集(案)
2. 支部優秀学生賞選考委員会の設置
3. 支部功績賞選考委員会の設置
4. 支部執行委員会委員の選任

(4) 第4回支部執行委員会

日時: 令和7年12月16日(火)16:00~17:30

方法: ハイブリッド形式(対面・オンライン)

出席者: 26名(委任状8名), オブザーバー1名

議事:

報告事項

1. 前回議事録確認
2. 本部定例理事会報告(10月)
3. 令和7年度各研究委員会報告
4. 令和7年度各特別委員会報告

5. コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会報告
6. コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座報告
7. コンクリート主任技士・技士試験実施報告

審議事項

1. 支部執行部候補者推薦委員会
2. コンクリート診断士, コンクリート技士・主任技士試験統括管理者の選任及び推薦
3. 令和8年度支部事業計画(案)
4. 令和8年度 支部予算(案)

(5) 第5回支部執行委員会

日 時：令和8年2月26日(木)16:00～17:15

方 法：ハイブリッド形式（対面・オンライン）

出席者：36名（委任状14名）、オブザーバー2名

議 事：

報告事項

1. 前回議事録確認
2. 本部定例理事会（12月,2月）、支部長会議報告
3. 令和7年度各研究委員会報告
4. 令和7年度各特別委員会報告
5. 優秀学生賞授賞審査委員会報告
6. 功績賞選考委員会報告
7. 第34回支部総会（活動報告会）開催（案）

審議事項

1. 令和8年度研究委員会設置
2. 令和7年度収支決算見込み・令和8年度予算計画(案)
3. 令和8年度支部執行部の選任・委員交代

4. 主催行事

(1) 若手会10周年記念式典・現場見学会

日 時：令和7年9月18日(木)15:50～17:55

式 典：TKP 札幌駅カンファレンスセンター

参加者：39名

日 時：令和7年9月19日(金)9:00～17:00

見学先：エスコンフィールドツアーおよび札幌ダイビル工事現場

参加者：40名

(2) コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会

日 時：令和7年10月9日(木)9:00～17:00

見学先：小樽ジャンクション C ランプ橋工事, 北村遊水地排水門工事

参加者：31名

(3) コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座

日 時：令和7年10月21日(木) 15:00～17:00

方 法：ハイブリッド形式（対面・オンライン）

参加申込者：55名（対面24名, オンライン31名）

講演内容：

「コンクリート標準示方書を活用した既設RC構造物の性能照査例」金澤 健（北海学園大学）

「国際貢献事業～フィリピンにおける補強CB造への技術支援～」植松武是（北海学園大学）

5. 後援その他行事

- (1) 令和7年度 コンクリート講演会 (後援)
主 催：一般財団法人 北海道コンクリート技術センター
日 時：令和7年10月3日(金) 13:20~16:50
場 所：札幌エルプラザ
出席者：60名
- (2) 積雪寒冷地コンクリート上級セミナー (後援)
主 催：一般財団法人 北海道コンクリート技術センター
日 時：第1回 令和7年11月21日(金) 13:20~16:50
第2回 令和7年12月19日(金) 13:20~16:50
第3回 令和8年01月16日(金) 13:20~16:50
第4回 令和8年02月20日(金) 13:20~16:50
場 所：札幌エルプラザ
出席者：全4回 80名
- (3) 土木の日パネル展 2025 北の暮らしを支える土木 (後援)
主 催：北海道土木技術会
日 時：令和7年11月16日(日)~17日(月) 10:00~19:00
場 所：札幌駅前通地下歩行空間 北大通交差点広場(東)
来場者：16日：416名 18日：371名 計787名
- (4) HITEST 20周年記念セミナー -IT・AI社会と技術倫理- (後援)
主 催：HITEST(一般財団法人 第三者社会基盤 技術評価支援機構・北海道)
日 時：令和7年11月17日(月) 13:30~16:40
場 所：札幌エルプラザ
出席者：会場：81名
- (5) セメント系固化材セミナー -国土強靱化を支える地盤改良-
主 催：一般社団法人セメント協会
日 時：令和8年3月10日(火) 13:20~16:50
場 所：ポールスター札幌
出席者：会場：209名

6. 本部企画行事

- (1) コンクリート診断士試験
日 時：令和7年7月27日(日)
場 所：札幌コンベンションセンター
受験者：165名 (申込者226名)
- (2) コンクリート技士・主任技士試験
日 時：令和7年11月30日(日)
場 所：TKP 札幌駅カンファレンスセンター
受験者：技士試験339名 (申込者410名) 主任技士試験168名 (申込者200名)

2号. 令和7年度 決算報告

自 令和7年04月01日
至 令和8年03月31日 (単位：円)

科 目	A:令和7年度 予算額	B:令和7年度 決算額	A-B 差 額
収入の部			
(事業収益)	(680,000)	(733,288)	-(53,288)
講演会等収益(見学会等)	80,000	58,000	22,000
コンクリート技士・主任技士試験業務援助報酬金	400,000	442,680	-42,680
コンクリート診断士試験業務援助報酬金	200,000	232,608	-32,608
(その他収益)	(2,191,050)	(2,052,962)	(138,088)
受入利息	50	4,882	-4,832
懇親会等収益	286,000	90,000	196,000
雑収益	10,000	63,900	-53,900
本部交付金	1,895,000	1,894,180	820
(繰越金)	(7,369,479)	(7,369,479)	(0)
(支部管理)前期繰越金	319,479	319,479	0
(本部管理)支部預け金繰越金	1,046,875	1,046,875	0
年次大会繰越金(令和7年度予算計上分)	3,183,000	3,183,000	0
年次大会繰越金(令和8年度～令和9年度予算計上分)	2,820,125	2,820,125	0
合 計	10,240,529	10,155,729	84,800
支出の部			
(事業費)	(4,043,300)	(2,994,497)	(1,048,803)
時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造部設計に関する研究委員会(2期)【B種, 継続】	340,000	397,720	-57,720
北海道の火山堆積物の利用研究委員会【B種, 継続】	340,000	172,263	167,737
破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会【B種, 継続】	340,000	243,100	96,900
北海道におけるコンクリートの化学的侵食研究委員会【B種, 新規】	340,000	164,273	175,727
JCI北海道支部若手会運営委員会【継続】	943,300	805,786	137,514
将来構想具体化検討委員会【新規】	300,000	122,229	177,771
年次大会(2027)準備委員会【新規】	500,000	395,328	104,672
インターネット委員会【継続】	60,000	26,180	33,820
コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会	400,000	348,947	51,053
コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座	300,000	211,133	88,867
表彰選考委員会(功績賞)	80,000	50,655	29,345
表彰選考委員会(優秀学生賞)	100,000	56,883	43,117
(管理費)	(2,330,229)	(1,755,352)	(574,877)
総会費	600,000	350,320	249,680
執行委員会・幹部会	600,000	414,157	185,843
事務委託費(支部業務)	860,000	855,536	4,464
通信費	140,000	93,374	46,626
消耗品費	40,000	110	39,890
手数料	5,000	3,080	1,920
その他雑費	85,229	38,775	46,454
(繰越金)	(3,867,000)	(5,405,880)	-(1,538,880)
支部繰越金(内訳：支部管理1,538,880円 本部管理1,046,875円)	1,046,875	2,585,755	-1,538,880
年次大会繰越金	2,820,125	2,820,125	0
合 計	10,240,529	10,155,729	84,800

3号. 令和7年度 研究委員会報告

1. 時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会 (第2期) 【B種・終了】

(1) 活動期間

令和6年4月～令和8年3月

(2) 活動経過

令和6年08月28日	第1回	委員会	既設複合構造物の性能評価, 既設 RC 床板の疲労性能評価に関する話題提供と委員会の方針の検討
令和6年12月12日	第2回	委員会	既設構造物の劣化事例紹介と設計による対策に関する議論
令和6年02月06日	第3回	委員会	既設構造物の劣化事例紹介と設計による対策に関する議論
令和7年06月23日	第4回	委員会	火害構造物の診断・復旧事例紹介と劣化構造物の解析に関する議論
令和7年11月07日	第5回	委員会	火害構造物の性能評価研究事例紹介と凍害構造物の性能評価に関する議論
令和8年01月27日	第6回	委員会	北海道における構造物の設計のあるべき姿に関する議論
令和8年03月29日～30日			旧茂喜登牛水路橋および音更川橋梁群の視察

(3) 活動成果・活動報告

令和7年度は、火害構造物の診断・復旧事例、解析による評価事例について知見を得ると共に、凍害損傷した地覆の性能評価について検討した。歴史的構造物も視察し、その現有性能について議論した。また、現在の北海道に特有の課題を背景に北海道における構造物の設計のあるべき姿について委員へアンケートを実施し、2年間の活動を通じた最終的な委員会の意見としてとりまとめた。

(4) 委員会の構成

委員長	高橋 良輔	北海学園大学
幹事	阿部 淳一	株式会社 HRC 研究所
〃	小林 竜太	株式会社ドーコン
〃	中村 拓郎	土木研究所寒地土木研究所
委員	秋野 薫	株式会社シビテック
〃	石川 義樹	八千代エンジニアリング株式会社
〃	葛西 元気	株式会社開発工営社
〃	加藤 貴博	株式会社大日本ダイヤコンサルタント
〃	堀江 沙季	株式会社大日本ダイヤコンサルタント
〃	木下 浩二	株式会社シビテック
〃	日下 隼図	株式会社長大
〃	斉藤 航平	株式会社ドーコン
〃	坂田 浩一	株式会社長大
〃	坂村 和俊	株式会社構研エンジニアリング
〃	塩原 龍法	株式会社開発工営社
〃	中田 雄之	株式会社開発調査研究所
〃	中谷 幸太	株式会社構研エンジニアリング
〃	野呂田悠斗	株式会社ドーコン
〃	橋本 松市	株式会社開発調査研究所
〃	野々村佳哲	土木研究所寒地土木研究所
〃	古内 仁	北海道大学大学院
〃	細井 智雄	八千代エンジニアリング株式会社
〃	和地 高弘	東日本高速道路株式会社

2. 北海道の火山堆積物の利用研究委員会【B種・終了】

(1) 活動期間

令和6年4月～令和8年3月

(2) 活動経過

令和6年05月10日	第一回委員会	これまでの取り組み紹介，意見交換
令和6年11月22日	第二回委員会	各地での新たな取り組み，経過報告
令和7年03月12日	第三回委員会	経過報告
令和7年12月05日	第四回委員会	経過報告，報告書目次検討
令和8年03月25日	第五回委員会	報告書内容確認

(3) 活動成果・活動報告

令和6年度は，過去から現在に至るまでの各地での火山堆積物利用にかかわる取り組みについて，話題提供，情報交換を行い，課題等の共有をはかった。また，各機関で進行中の実験等について意見交換を行った。

令和7年度は，各機関で進行中の取り組みについて，報告，意見交換を行うとともに活動内容の取りまとめを行った。

(4) 委員会の構成

1) 委員会の構成

委員長	谷口 円	室蘭工業大学大学院
幹事	吉田 行	土木研究所寒地土木研究所
委員	金 志訓	室蘭工業大学大学院
委員	神本 邦夫	北海道太平洋生コン株式会社
〃	石塚 浩章	株式会社上田商会
〃	垣原 康之	北方総合建築研究所
〃	福永 隆之	九州大学
〃	友寄 篤	東京大学
〃	上野 敦	東京都立大学
〃	審良 善和	鹿児島大学
〃	中村 雄太	西松建設株式会社

3. 破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会【B種・終了】

(1) 活動期間

令和6年4月～令和8年3月

(2) 活動経過

令和6年04月01日	第1回委員会	活動計画の共有と実験計画に関する議論
令和6年05月28日	第2回委員会	実験計画に関する議論とレビュー論文の作成
令和6年08月22日	第3回委員会	レビュー論文の作成および力学モデルの議論
令和6年12月27日	第4回委員会	レビュー論文の修正および力学モデルの議論
令和7年05月12日	第5回委員会	レビュー論文原稿の共有および力学モデルの議論

(3) 活動成果・活動報告

令和7年度は，昨年度の文献調査をベースとしつつ，新たな知見を収集したレビュー論文を学会誌コンクリート工学に投稿することができた A)。単繊維をモルタルに埋め込んだ試験体による引抜クリープ試験の結果は発表できていないものの，破壊力学によって力学的な根拠を補強した確率モデルが，ばらつきの大きい繊維の引抜挙動の定式化に有効であることを確認した。

A) 金澤健，高橋駿人，橋本勝文，松本高志，短繊維とコンクリート間の力学的相互作用が示す不確実性に関する海外の研究動向，コンクリート工学，63(12)，pp.1008-1017，2025。

(4) 委員会の構成

委員長	金澤 健	北海学園大学
幹事	橋本 勝文	北海道大学大学院
委員	高橋 駿人	東北大学
〃	松本 高志	北海道大学大学院

4. 北海道におけるコンクリートの化学的侵食研究委員会【B種・継続】

(1) 活動期間

令和7年4月～令和9年3月

(2) 活動経過

令和7年4月25日	第1回委員会	委員会概要説明，話題提供（吉田夏樹委員），自由討議
令和7年8月4日	第2回委員会	話題提供（橋本委員），意見交換
令和7年11月28日	第3回委員会	登別調査報告，話題提供（林委員，竹内委員），意見交換
令和8年3月26日	第4回委員会	次年度計画，意見交換

(3) 活動成果・活動報告

令和7年度は，全国の事例について吉田（夏）委員から話題提供をいただいた。その後，各委員から関連する話題提供を行い，意見交換を行った。また，北海道内の実構造物で発生している化学的侵食の事例について情報収集を開始した。

(4) 委員会の構成

委員長	谷口 円	室蘭工業大学大学院
幹事	吉田 行	土木研究所寒地土木研究所
委員	小倉 東	日鉄セメント（株）
〃	木村 義彰	（地独）北海道立総合研究機構農業研究本部
〃	林 沙耶佳	（株）太平洋コンサルタント
〃	吉田 夏樹	大阪大学
〃	遠田 康英	岩田地崎建設（株）
〃	橋本 勝文	北海道大学
〃	竹内 亮介	日鉄セメント（株）
〃	三上 健	札幌インスペクション（株）

4号. 令和7年度 特別委員会報告

1. インターネット委員会【継続】

(1) 活動経過

支部ホームページの随時更新と更新通知を行った。今年度の主な更新履歴と支部ホームページへのアクセス数は以下の通りである。

更新履歴

2025.10.24	《行事案内》後援行事「セメント系固化材セミナー」のご案内
2025.10.22	《行事案内》後援行事「積雪寒冷地コンクリート上級セミナー」のご案内
2025.10.16	《行事案内》後援行事「HITEST 20周年記念セミナー」のご案内
2025.09.26	《コンクリートの日 in HOKKAIDO》出前講座のご案内
2025.08.25	《行事案内》後援行事「令和7年度 コンクリート講演会」のご案内
2025.08.05	《コンクリートの日 in HOKKAIDO》見学会のご案内
2025.08.04	《若手会》「若手会 10周年記念式典・現場見学会」のご案内 を更新しました

- 2025.07.23 《若手会》「若手会 10 周年記念式典・現場見学会」のご案内
- 2025.06.24 【特別委員会】「将来構想検討委員会」報告書を掲載しました
- 2025.06.17 《優秀学生賞》2024 年度受賞者を掲載しました
- 2025.06.17 《功績賞》2024 年度受賞者を掲載しました
- 2025.06.17 《支部執行委員会》を更新しました
- 2025.05.15 北海道支部 第 33 回支部総会（活動報告会） 活動報告書を掲載しました
- 2025.04.22 北海道支部 第 33 回支部総会（活動報告会）開催のお知らせ を更新しました
- 2025.04.15 《各種申請書式雛型》を更新しました

支部ホームページへのアクセス数（2025 年 4 月～2026 年 3 月） 2026 年 3 月 26 日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪問者全数	2946	3608	3193	3322	3641	3358	4002	3249	3821	3936	3620	3147
一日あたりの平均訪問者数	98	116	106	107	117	111	129	108	123	126	129	121

(2)委員会の構成

委員長 越川 武晃 北海道大学大学院
 委員 金澤 健 北海学園大学

2. JCI 北海道支部若手会運営委員会【継続】

(1)活動期間

平成 26 年 5 月(活動開始)

(2)活動経過

- 1) 第 1 回委員会：令和 7 年 6 月 16 日 11:00～12:00
 議題：委員役割分担および令和 7 若手会 10 周年記念式典について
- 2) 令和 7 年北海道支部若手会 10 周年記念式典：令和 7 年 9 月 18 日 15:50～20:00
 場所：TKP 札幌駅カンファレンスセンター
- 3) 令和 7 年北海道支部若手会 10 周年記念見学会：令和 7 年 9 月 19 日 10:00～15:30
 場所：エスコンフィールドおよび札幌ダイビル工事現場
- 4) 第 2 回委員会：令和 8 年 2 月 26 日 16:00～16:30
 議題：令和 8 年度委員構成および活動計画
- 5) 第 1 回勉強会：令和 8 年 2 月 26 日 17:30～19:00
 場所：室蘭工業大学
 講演者：岩田地崎建設 室橋委員、北電総合設計 山田委員、會澤高圧コンクリート 小屋畑委員
- 6) 第 2 回見学会：令和 8 年 2 月 26 日 19:00～20:30
 場所：室蘭工業大学構造力学研究室 実験室見学（瓦井委員）

(3)活動成果・活動報告

令和 7 年度は、9 月には北海道支部若手会 10 周年記念式典を実施し、あわせて見学会（エスコンフィールドおよび札幌ダイビル工事現場）を開催した。本記念事業は本年度の主な活動であり、多くの参加者のもと、円滑に実施することができた。

また、令和 8 年 2 月には第 2 回委員会を開催し、次年度の委員構成および活動計画について協議を行った。同日には勉強会および見学会（室蘭工業大学構造力学研究室）を実施し、実務および研究に関する知見を共有する機会となった。

(4)委員会の構成

委員長 金 志訓 室蘭工業大学大学院
 幹事 金澤 健 北海学園大学

委員	呉 多英	北海道大学大学院
〃	瓦井 智貴	室蘭工業大学
〃	小屋畑 侑子	會澤高圧コンクリート株式会社
〃	澤田 恵佑	株式会社ドーコン
〃	高橋 広平	株式会社長大
〃	高橋 舞依	日本高圧コンクリート株式会社
〃	土岐 秀人	北武コンサルタント株式会社
〃	室橋 亨	岩田地崎建設株式会社
〃	山田 陸生	北電総合設計株式会社

3. 将来構想具体化検討委員会【新規】

(1) 活動期間

令和7年4月～令和8年3月

(2) 活動経過

1) 第1回幹事会：令和7年6月20日

委員会名称、各WG委員構成、各WGの検討内容、今年度の進め方について議論した。

2) 第1回委員会WG：令和7年8月19日

委員会活動用のメーリングリストの作成、(仮称)技術相談窓口・お悩み共有窓口の設置、執行委員所属の各社・団体会員からのテーマ収集、委員会の立ち上げおよび進め方に関する情報整理などについて検討した。

3) 第2回委員会WG：令和7年11月17日

執行委員所属の各社・団体からのテーマ収集案、委員会の立ち上げ案内や委員募集等のメーリングリスト、(仮称)技術相談窓口・お悩み共有窓口の設置、支部での委員会立ち上げ時の課題について議論した。

4) 第1回事業・若手支援WG：令和7年12月12日

将来構想検討委員会での提言の確認、新規事業の検討、SNSを活用した情報発信について議論した。

5) 第1回表彰WG：令和8年2月9日

将来構想検討委員会の活動内容の確認、「功績賞」の現状課題と改善の方向性、新設賞(MVP・若手賞)の扱い、優秀学生賞の現状について議論した。

6) 第3回委員会WG：令和8年3月23日

アンケート調査結果(速報版)および(仮称)技術相談窓口・お悩み共有窓口の設置について議論した。

7) 第1回全体委員会：令和8年3月24日

各WGの活動状況を共有し検討課題を抽出するとともに、次年度の活動計画およびスケジュールを確認した。

(3) 活動成果・活動報告

将来構想検討委員会(2023～2024年度)の提言をもとに、次世代への継承と支部の持続性・活性化を考慮した支部活動の継続的かつ発展的な議論を行い、具体化に向けた課題を抽出するとともに、今後の検討課題を整理した。なお、委員会WGで実施したアンケート調査結果は、支部ホームページにて公開予定である。

(4) 委員会の構成

委員長	井上 真澄	北見工業大学
幹事	谷口 円	室蘭工業大学大学院
〃	高瀬 裕也	室蘭工業大学大学院
〃	橋本 勝文	北海道大学大学院
〃	中村 拓郎	土木研究所寒地土木研究所
〃	松本 浩嗣	北海道大学大学院

総括 WG

主 査	谷口 円	室蘭工業大学大学院
委 員	高瀬 裕也	室蘭工業大学大学院 (事業・若手支援 WG 主査)
〃	橋本 勝文	北海道大学大学院 (委員会 WG 主査)
〃	中村 拓郎	土木研究所寒地土木研究所 (委員会 WG 幹事)
〃	松本 浩嗣	北海道大学大学院 (表彰 WG 主査)
〃	宮越 亮	日本高圧コンクリート株式会社
〃	林 茂樹	勇建設株式会社
〃	井上 雅弘	株式会社長大

表彰 WG

主 査	松本 浩嗣	北海道大学大学院
委 員	井上 雅弘	株式会社長大
〃	神本 邦男	北海道太平洋生コン株式会社
〃	渡辺 暁央	苫小牧工業高等専門学校

委員会 WG

主 査	橋本 勝文	北海道大学大学院
幹 事	中村 拓郎	土木研究所寒地土木研究所
委 員	足立 裕介	北海学園大学
〃	高橋 良輔	北海学園大学
〃	黒川 翔太	曾澤高圧コンクリート株式会社
〃	坂口 淳一	株式会社 HRC 研究所
〃	細矢 瑞樹	株式会社 HRC 研究所

事業・若手支援 WG

主 査	高瀬 裕也	室蘭工業大学大学院
委 員	笠井 尚樹	株式会社 HRC 研究所
〃	金澤 健	北海学園大学
〃	高橋 克明	伊藤組土建株式会社
〃	金 志訓	室蘭工業大学大学院
〃	瓦井 智貴	室蘭工業大学
〃	對木 啓克	東陽上村アドバンス株式会社
〃	中村 真生	日本高圧コンクリート株式会社

事務局	青野 美樹	株式会社ドーコン
-----	-------	----------

4. コンクリート工学年次大会 2027 (札幌) 準備委員会【終了】

(1) 活動期間

令和7年4月～令和8年3月

(2) 活動経過

1) 令和7年6月27日(金) 第1回委員会(ハイブリッド開催)

実施体制, 前回大会2019の振り返り, 準備スケジュールの確認

大会キャッチコピー, 各種行事についての意見交換

2) 令和7年10月14日(火) 第2回委員会(ハイブリッド開催)

盛岡大会視察報告, 大会キャッチコピー案, 各分会委員候補者, KOC企画の意見交換

3) 令和7年12月23日(火) 第3回委員会 (WEB開催)

大会キャッチコピー案, 各部会委員候補者, KOC企画案, 特別講演案などの審議

(3) 活動成果・活動報告

2027年度に開催予定のコンクリート工学年次大会(札幌)に向けて, 北海道支部としての運営組織の確立, 大会テーマの策定, 特別講演, 生コンセミナー, コンクリート診断セミナー, テクノプラザ, 見学会, 特別企画の内容などについての意見交換, 年次大会2025(盛岡)の視察, 実施要項の確認を行った。

(4) 委員会の構成

委員長	濱 幸雄	北海道大学
副委員長	井上 真澄	北見工業大学
幹事長	谷口 円	室蘭工業大学
【総務部会】		
部会長	高橋 良輔	北海学園大学
代表幹事	北垣 亮馬	北海道大学
幹事	越川 武晃	北海道大学
〃	松本 浩嗣	北海道大学
【講演部会】		
部会長	小室 雅人	室蘭工業大学
代表幹事	鈴木 邦康	釧路工業高等専門学校
幹事	崔 希燮	北見工業大学
〃	金 志訓	室蘭工業大学
【コンクリートテクノプラザ部会】		
部会長	谷口 円	室蘭工業大学
代表幹事	橋本 勝文	北海道大学
幹事	中村 拓郎	寒地土木研究所
【特別講演部会】		
部会長	胡桃澤 清文	北海道大学
代表幹事	長井 宏平	北海道大学
幹事	吉田 行	寒地土木研究所
【生コンセミナー部会】		
部会長	足立 裕介	北海学園大学
代表幹事	後藤 勝己	UBE 三菱セメント株式会社
幹事	金澤 健	北海学園大学
【事業部会】		
部会長	渡辺 暁央	苫小牧工業高等専門学校
代表幹事	高瀬 裕也	室蘭工業大学
幹事	三原 慎弘	寒地土木研究所

5号. 令和8年度 事業計画報告

1. 支部総会 (活動報告会) 1回開催 (5月29日 (金) 対面開催)
委員会報告, 特別講演, 懇親会開催
2. 支部幹部会 5回程度開催
3. 支部執行委員会 5回程度開催
4. 主催行事
 - 1) 講習会・講演会・報告会 2回程度開催
 - 2) コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会 1回開催
 - 3) コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座 1回開催
5. 表彰
 - 1) 支部功績賞
 - 2) 支部優秀学生賞
6. 本部企画行事
 - 1) コンクリート診断士試験 7月 (実施説明会5月)
 - 2) コンクリート技士・主任技士試験 11月 (実施説明会9月)

7. 研究委員会

(1) 北海道におけるコンクリートの化学的侵食研究委員会【B種・継続】

1) 活動期間

令和7年4月～令和9年3月

2) 設立趣旨

土壌中に含まれる各種イオン, 温泉成分, 骨材中に含有される成分などにより, コンクリートは化学侵食を受ける。主な化学侵食には, 酸による水和物の分解, 硫酸塩の作用による膨張性化合物の生成などがある。これらは, 構造物の建設地の地域特性と関係する。また, コンクリートの低炭素化において, 炭酸カルシウム微粉末の混入も進められつつある。これにより, 今後 TSA など低温下で発生する硫酸塩劣化の危険性も考えられる。以上をふまえ, 北海道内の実構造物での化学的侵食の実態について把握する必要がある。

3) 活動計画

引き続き, 北海道内の実構造物で発生している化学的侵食の事例について情報交換・実態把握を行う。

4) 委員会の構成

委員長	谷口 円	室蘭工業大学大学院
幹事	吉田 行	土木研究所寒地土木研究所
委員	小倉 東	日鉄高炉セメント (株)
〃	木村 義彰	(地独) 北海道立総合研究機構農業研究本部
〃	林 沙耶佳	(株) 太平洋コンサルタント
〃	吉田 夏樹	大阪大学
〃	遠田 康英	岩田地崎建設 (株)
〃	橋本 勝文	北海道大学
〃	竹内 亮介	日鉄高炉セメント (株)
〃	三上 健	札幌インスペクション (株)

(2) 寒冷地環境下における高炉スラグ系セメントの化学的活性化に関する調査研究委員会【B種・新規】

1) 活動期間

令和8年4月～令和10年3月

2) 設立趣旨

寒冷地である北海道においては、CO₂削減および資源循環の観点から、高炉スラグ微粉末を用いたセメント系材料の活用が期待されている。一方で、高炉スラグは潜在水硬性材料であり、低温環境下では初期水和反応が遅延し、十分な性能を発現しにくいという課題を有している。

近年、亜硝酸カルシウムを主成分とする耐寒促進剤が寒中施工に用いられているが、その化学的作用や高炉スラグの活性化機構については、実務的観点から体系的に整理されているとは言い難い。

本研究委員会では、寒冷地環境下における高炉スラグ系セメントの反応挙動に着目し、耐寒促進剤の化学的役割を含めた既往知見および事例を整理・共有することで、北海道における実務的活用に資する基礎的知見の整理を目的とする。

3) 活動計画

寒冷地環境下における高炉スラグ系セメントの水和反応および化学的活性化に関する既往研究および実務事例について情報収集・整理を行うとともに、委員間の情報交換を通じて技術的課題の把握を行う。また、関連メーカーや施工現場の見学および意見交換を通じて、実務的観点からの知見の蓄積を図る。

4) 委員会の構成

委員長	崔 希燮	北見工業大学
幹事	金 志訓	室蘭工業大学
委員	井上 真澄	北見工業大学
〃	呉 多英	北海道大学
〃	PYEON Sujeong	北海道大学

※今後、必要に応じて委員を追加し、最大8名程度の構成とする。

8. 特別委員会

(1) インターネット委員会【継続】

1) 活動計画

引き続き、支部ホームページの作成・維持管理を行う。随時更新を行い、充実を図る。内容は、支部長挨拶、コンクリートの日 in HOKKAIDO、行事案内、研究委員会紹介、若手会、補修工法アンケート、刊行図書紹介、功績賞、優秀学生賞、支部団体会員、支部執行委員および関連ページへのリンクなどを掲載する。ホームページの URL は、<http://www.jci-h.org/>

2) 委員会の構成

委員長	越川 武晃	北海道大学大学院
委員	金澤 健	北海学園大学

(2) JCI 北海道支部若手会運営委員会【継続】

1) 活動計画

JCI 北海道支部若手会は、勉強会や現場見学会を軸に活動を継続する。令和8年度は、委員所属機関の学生や委員でない若手社員にも参加してもらえるよう、見学会を拡大して開催することを計画している。その他、活動内容を何らかのメディアから発信する仕組みづくりにも着手し、若手の技術者・研究者・学生にとってのハブとして、本委員会が機能するよう活動していく。JCI 北海道支部若手会は、若手コンクリート技術者・研究者の勉強会、見学会および意見交換を持続的に行い、今後も活動を継続していく。

2) 委員会の構成

委員長	金澤 健	北海学園大学	(令和8年度新任)
幹事	瓦井 智貴	室蘭工業大学	(令和8年度新任)
委員	呉 多英	北海道大学	(継続)
委員	金 志訓	室蘭工業大学	(令和8年度 委員長から委員に変更)

委員	小屋畑侑子	會澤高圧コンクリート株式会社	(継続)
委員	澤田 恵佑	株式会社ドーコン	(継続)
委員	高橋 広平	株式会社社長大	(継続)
委員	高橋 舞依	日本高圧コンクリート株式会社	(継続)
委員	土岐 秀人	北武コンサルタント株式会社	(継続)
委員	室橋 亨	岩田地崎建設株式会社	(継続)
委員	山田 陸生	北電総合設計株式会社	(継続)

(3) 将来構想具体化検討委員会【継続】

1) 活動期間

令和8年4月～令和9年3月

2) 活動計画

将来構想検討委員会（2023～2024年度）の提言をもとに、次世代への継承と支部の持続性・活性化を考慮した支部活動の継続的かつ発展的な議論を行い、具体化に向けて検討を行う。

- ・支部運営体制：運営体制の見直し、事務局業務の効率化、広報事業の充実、内規・規定の整備
- ・研究委員会：テーマ設定・委員公募方法の検討、活動期間中の工夫、活動終了後のフォロー
- ・表彰事業：表彰制度の再設計
- ・支部事業・若手支援：学生主体の企画、学生と若手技術者の交流・企業セミナーなどの企画検討

3) 委員会の構成

委員長	井上 真澄	北見工業大学
幹事	谷口 円	室蘭工業大学大学院
幹事	高瀬 裕也	室蘭工業大学大学院
〃	橋本 勝文	北海道大学大学院
〃	中村 拓郎	土木研究所寒地土木研究所
〃	松本 浩嗣	北海道大学大学院

総括WG

主査	谷口 円	室蘭工業大学大学院
委員	高瀬 裕也	室蘭工業大学大学院（事業・若手支援WG主査）
〃	橋本 勝文	北海道大学大学院（委員会WG主査）
〃	中村 拓郎	土木研究所寒地土木研究所（委員会WG幹事）
〃	松本 浩嗣	北海道大学大学院（表彰WG主査）
〃	宮越 亮	日本高圧コンクリート株式会社
〃	林 茂樹	勇建設株式会社
〃	井上 雅弘	株式会社社長大

表彰WG

主査	松本 浩嗣	北海道大学大学院
委員	井上 雅弘	株式会社社長大
〃	神本 邦男	北海道太平洋生コン株式会社
〃	渡辺 暁央	苫小牧工業高等専門学校

委員会WG

主査	橋本 勝文	北海道大学大学院
幹事	中村 拓郎	土木研究所寒地土木研究所
委員	足立 裕介	北海学園大学

委員	高橋 良輔	北海学園大学
〃	黒川 翔太	曾澤高圧コンクリート株式会社
〃	坂口 淳一	株式会社 HRC 研究所
〃	細矢 瑞樹	株式会社 HRC 研究所

事業・若手支援 WG

主査	高瀬 裕也	室蘭工業大学大学院
委員	笠井 尚樹	株式会社 HRC 研究所
〃	金澤 健	北海学園大学
〃	高橋 克明	伊藤組土建株式会社
〃	金 志訓	室蘭工業大学大学院
〃	瓦井 智貴	室蘭工業大学
〃	對木 啓克	東陽上村アドバンス株式会社
〃	中村 真生	日本高圧コンクリート株式会社

事務局	青野 美樹	株式会社ドーコン
-----	-------	----------

6号. 令和8年度 収支予算報告

自 令和8年 4月 1日
至 令和9年 3月31日 (単位:円)

科 目	A: 令和8年度 予算(案)	B: 令和7年度 予算額	A-B 差 額
収入の部			
(事業収益)	(630,000)	(680,000)	-(50,000)
講演会等収益(見学会等)	30,000	80,000	-50,000
コンクリート技士・主任技士試験業務援助報酬金	400,000	400,000	0
コンクリート診断士試験業務援助報酬金	200,000	200,000	0
(その他収益)	(2,186,050)	(2,191,050)	-(5,000)
受入利息	50	50	0
懇親会収益	286,000	286,000	0
雑収益	0	10,000	-10,000
本部交付金	1,900,000	1,895,000	5,000
(繰越金)	(5,405,880)	(7,369,479)	-(1,963,599)
(支部管理)前期繰越金	1,538,880	319,479	1,219,401
(本部管理)支部預け金繰越金	1,046,875	1,046,875	0
年次大会繰越金(令和8年度予算計上分)	1,480,000	-	1,480,000
年次大会繰越金(令和9年度予算計上分)	1,340,125	-	1,340,125
年次大会繰越金(令和7年度予算計上分)	-	3,183,000	-3,183,000
年次大会繰越金(令和8年度～令和9年度予算計上分)	-	2,820,125	-2,820,125
合 計	8,221,930	10,240,529	-2,018,599
支出の部			
(事業費)	(2,290,000)	(4,043,300)	-(1,753,300)
北海道におけるコンクリートの化学的侵食研究委員会【B種, 継続】	350,000	340,000	10,000
寒冷地環境下における高炉スラグ系セメントの化学的活性化に関する調査研究委員会【B種, 新規】	350,000	-	350,000
時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造部設計に関する研究委員会(2期)【B種, 終了】	-	340,000	-340,000
北海道の火山堆積物の利用研究委員会【B種, 終了】	-	340,000	-340,000
破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会【B種, 終了】	-	340,000	-340,000
JCI北海道支部若手会運営委員会【継続】	380,000	943,300	-563,300
将来構想具体化検討委員会【継続】	200,000	300,000	-100,000
インターネット委員会【継続】	60,000	60,000	0
年次大会(2027)準備委員会【終了】	-	500,000	-500,000
コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会	490,000	400,000	90,000
コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座	300,000	300,000	0
表彰選考委員会(功績賞)	80,000	80,000	0
表彰選考委員会(優秀学生賞)	80,000	100,000	-20,000
(管理費)	(2,006,050)	(2,330,229)	-(324,179)
総会費	300,000	600,000	-300,000
執行委員会・幹部会	600,000	600,000	0
事務委託費・貸室料(支部業務)	860,000	860,000	0
通信費	140,000	140,000	0
消耗品費	40,000	40,000	0
手数料	5,000	5,000	0
その他雑費	61,050	85,229	-24,179
(繰越金)	(3,925,880)	(3,867,000)	(58,880)
支部繰越金(内訳:支部管理1,538,880円 本部管理1,046,875円)	2,585,755	1,046,875	1,538,880
年次大会繰越金	1,340,125	2,820,125	-1,480,000
合 計	8,221,930	10,240,529	-2,018,599

7号. 令和8年度 支部執行委員会構成報告

支 部 長 ^{*兼任}	谷口 円 ^{*1}	室蘭工業大学大学院
副 支 部 長	高橋 良輔 ^{*1}	北海学園大学
支 部 幹 事 [*]	井上 雅弘 ^{*2}	株式会社長大
〃	今村 晃久 ^{*2}	株式会社開発工営社
〃	片桐 章憲 ^{*1}	株式会社ドーコン
〃	神坂 和博 ^{*2}	會澤高圧コンクリート株式会社
〃	胡桃澤清文 ^{*1}	北海道大学大学院
〃	越川 武晃 ^{*2}	北海道大学大学院
〃	高瀬 裕也 ^{*1}	室蘭工業大学大学院
〃	高橋 克明 ^{*1}	伊藤組土建株式会社
〃	渡辺 暁央 ^{*1}	苫小牧工業高等専門学校
支部執行委員	足立 裕介 ^{*2}	北海学園大学
〃	飯塚 一人 ^{*2}	北海道電力株式会社
〃	伊藤 拓 ^{*1}	ドーピー建設工業株式会社
〃	伊藤 雄二 ^{*1}	株式会社構研エンジニアリング
〃	海原 卓也 ^{*2}	北海道旅客鉄道株式会社
〃	江良 弘樹 ^{*1}	太平洋セメント株式会社
〃	金澤 健 ^{*1}	北海学園大学
〃	神本 邦男 ^{*2}	北海道太平洋生コン株式会社
〃	北垣 亮馬 ^{*2}	北海道大学大学院
〃	金 志訓 ^{*1}	室蘭工業大学大学院
〃	木村 泰 ^{*1}	東日本高速道路株式会社
〃	今野 克幸 ^{*2}	北海道科学大学
〃	佐々木修平 ^{*1}	フローリック株式会社
〃	定木 紳 ^{*2}	清水建設株式会社
〃	佐藤 義昭 ^{*1}	UBE 三菱セメント株式会社
〃	菅田 紀之 ^{*2}	室蘭工業大学大学院
〃	杉山 隆文 ^{*1}	北海道大学大学院
〃	鈴木 邦康 ^{*1}	釧路工業高等専門学校
〃	崔 希燮 ^{*1}	北見工業大学
〃	西口光太郎 ^{*1}	北海道職業能力開発大学校
〃	服部 健作 ^{*2}	北海道コンクリート技術センター
〃	濱 幸雄 ^{*1}	北海道大学大学院
〃	藤本 達貴 ^{*2}	鹿島建設株式会社
〃	松本 浩嗣 ^{*2}	北海道大学大学院
〃	吉田 行 ^{*2}	土木研究所寒地土木研究所

以上支部執行部 36名

検 査 役	井上 真澄 ^{*1}	北見工業大学
-------	---------------------	--------

^{*兼任})支部担当理事, ^{*})支部執行部候補者推薦委員会委員

^{*1})任期: 令和8年度~令和9年度, ^{*2})任期: 令和7年度~令和8年度

【参考資料】令和7年度 支部執行委員構成員

支 部 長 ^{*兼任}	井上 真澄 ^{*2}	北見工業大学
副 支 部 長	谷口 円 ^{*2}	室蘭工業大学大学院
支 部 幹 事 [*]	井上 雅弘 ^{*1}	株式会社長大
〃	今村 晃久 ^{*1}	株式会社開発工営社
〃 *	片桐 章憲 ^{*2}	株式会社ドーコン
〃	神坂 和博 ^{*1}	會澤高圧コンクリート株式会社
〃 *	胡桃澤清文 ^{*2}	北海道大学大学院
〃 *	越川 武晃 ^{*1}	北海道大学大学院
〃 *	高瀬 裕也 ^{*2}	室蘭工業大学大学院
〃	高橋 良輔 ^{*2}	北海学園大学
〃 *	遠田 康英 ^{*2}	岩田地崎建設株式会社
支部執行委員	足立 裕介 ^{*1}	北海学園大学
〃	阿部 清 ^{*2}	日鉄セメント株式会社
〃	伊藤 雄二 ^{*2}	株式会社構研エンジニアリング
〃	海原 卓也 ^{*1}	北海道旅客鉄道株式会社
〃	金澤 健 ^{*2}	北海学園大学
〃	神本 邦男 ^{*1}	北海道太平洋生コン株式会社
〃	北垣 亮馬 ^{*1}	北海道大学大学院
〃	金 志訓 ^{*2}	室蘭工業大学大学院
〃	木村 泰 ^{*2}	東日本高速道路株式会社
〃	後藤 勝己 ^{*2}	UBE 三菱セメント株式会社
〃	今野 克幸 ^{*1}	北海道科学大学
〃	定木 紳 ^{*1}	清水建設株式会社
〃	菅田 紀之 ^{*1}	室蘭工業大学大学院
〃	杉山 隆文 ^{*2}	北海道大学大学院
〃	鈴木 邦康 ^{*2}	釧路工業高等専門学校
〃	武田 宣孝 ^{*1}	北海道電力株式会社
〃	長倉 靖典 ^{*2}	ポゾリスソリューションズ株式会社
〃	中村 雅樹 ^{*2}	日本高圧コンクリート株式会社
〃	西口光太郎 ^{*2}	北海道職業能力開発大学校
〃	服部 健作 ^{*1}	北海道コンクリート技術センター
〃	濱 幸雄 ^{*2}	北海道大学大学院
〃	藤本 達貴 ^{*1}	鹿島建設株式会社
〃	松本 浩嗣 ^{*1}	北海道大学大学院
〃	吉田 行 ^{*1}	土木研究所寒地土木研究所
〃	渡辺 暁央 ^{*2}	苫小牧工業高等専門学校

以上支部執行部 36 名

検 査 役	深瀬 孝之 ^{*2}	北海道科学大学
-------	---------------------	---------

^{*兼任})支部担当理事, *)支部執行部候補者推薦委員会委員

*1)任期: 令和7年度~令和8年度, *2)任期: 令和6年度~令和7年度

8号. 令和8年度 支部顧問報告

溝口 光男 殿 室蘭工業大学名誉教授

吉野 伸一 殿 ジェイアール北海道エンジニアリング株式会社

2. 各賞選考結果報告

令和7年度 日本コンクリート工学会北海道支部優秀学生賞

選考結果報告

選考経過

令和8年2月9日(月)の締切りまでに、令和7年度JCI北海道支部優秀学生賞として、卒業論文1編、修士論文4編の合計5編の応募があった。JCI北海道支部優秀学生賞授賞審査委員会は、2月9日(月)に審査方法を確認し、2月19日(木)に各委員の評価結果を取りまとめ、2月20日(金)に遠隔会議で審査委員会を開催して慎重に審査した。

卒業論文、修士論文ともに応募者全員が選考基準を満たしており、全員を選考対象として審査した。修士論文については規定どおり最高評価点1名を受賞者として選考した。卒業論文については、応募者が1名であったが、審査委員全員による評価点が満点の75%と比較的高得点であり、修士論文の第2位と同等、かつ修士論文の最高評価点とも2点差であったことから、受賞に値するとして受賞者として選考した。

また、規程では選考対象者の残りの選考対象の中から受賞に値すると認められる者がいる場合には、さらに1名に限り受賞者として選考することができると定められている。修士論文の第2位は最高評価点に対して2点差と僅差であり、各審査委員の所見も踏まえて議論を重ねた結果、修士論文の第2位も受賞に値すると評価し、受賞者として選考した。

選考方法

審査にあたり、選考方法は以下のとおりとした。

1. 提出された推薦文と論文により評価する。
2. 評価項目は、JCI「コンクリート工学年次論文集」論文審査要領の採否の判定基準に準じる。即ち、①「新規・独創性」、②「発展性」、③「有用性・実用性」、④「完成度」(修論の場合)、「理解度」(卒論の場合)、⑤「成果・現象解明」の5項目とする。
3. 評価点は、各審査委員が5項目を3段階で評価(「評価せず:0点」、「良い:1点」、「大変良い:2点」)し、その合計点(審査委員1名10点、審査委員6名で60点満点)とする。なお、卒論(短大卒論を含む)、修論は各レベルに応じて評価する。
4. 審査委員全員による評価点が36点以上を選考対象とし、選考対象の中から卒論と修論のカテゴリーごとに最高評価点の選考対象者を受賞者として選考する。ただし、残りの選考対象の中から、受賞に値すると考えられる受賞対象者がいる場合には、さらに1名に限り受賞者として選考する。

優秀学生賞受賞者(50音順、所属は受賞時)

1. 小杉 智哉(室蘭工業大学大学院修了) 推薦者 谷口 円
論文名:「X線CTによる硬化コンクリートの新たな気泡計測手法」
2. 溝口 颯人(室蘭工業大学卒業) 推薦者 高瀬 裕也
論文名:「T形RC梁における協力幅領域と中空スラブが協力幅に及ぼす影響」
3. WANG MINGRUI(北見工業大学大学院修了) 推薦者 崔 希燮
論文名:「機械的活性化とCO₂ナノバブル技術を用いた炭酸水素カルシウムの合成および低カルシウムフライアッシュの炭酸化に関する研究」

決定理由

1. 小杉 智哉「X線CTによる硬化コンクリートの新たな気泡計測手法」

(理由)

本研究は、X線CTを用いた硬化コンクリート気泡組織の簡便かつ信頼性の高い計測手法の確立を目的として、気泡検出条件の明確化、気泡組織の直接評価指標の提案、ならびに凍結融解抵抗性ととの対応関係について検討を行ったものである。

AE 剤により連行される気泡が真球に近い形状を有する点に着目し、CT 画像での気泡検出条件として球形度の閾値を 0.6 とすることで、目視観察結果と整合する気泡が検出できることを示したうえ、幾何倍率と検出される気泡径の関係を整理した。また、CT 二次元画像から、個々の気泡が凍害から保護を担うセメントペースト領域（保護領域）を算定する手法を確立して保護特性値 P50、P95 を定義し、保護特性値の算出には、幾何倍率 8 倍での撮影が適切であることを明らかにした。さらに、保護特性値 P95 が 500 μm 以下の試験体では凍結融解試験における耐久性指数が 80 以上となり、両者に明確な対応関係があることを明らかにした。

本研究は、従来指標では説明が困難であった耐凍害性の差異を CT 画像による気泡の 3 次元分布に基づき合理的に説明できる可能性を示している。また、気泡組織評価を「平均的間隔の評価」から「保護が成立しない最不利領域を含めた性能評価」へと発展させた点で、新たな工学的枠組みを提示しており、発展性が高い。さらに、論文も十分に完成度が高いものである。

以上から、本研究は「日本コンクリート工学会北海道支部優秀学生賞」に相応しいものである。

2. 溝口 颯人「T形RC梁における協力幅領域と中空スラブが協力幅に及ぼす影響」

(理由)

本研究は、集合住宅で多く普及しているボイドスラブを有する鉄筋コンクリート (RC) ラーメン構造を構成する T 型 RC 梁の曲げ載荷実験と非線形有限要素解析を行い、ボイドスラブの協力幅について明らかにしようとするものである。協力幅は、T 形断面のフランジであるスラブ内に配置された鉄筋が梁の引張鉄筋として寄与するフランジ幅の範囲であり、これを明らかにすることにより、スラブを曲げに対する設計において考慮できる。実験の結果、通常スラブの協力幅は現行の規程の 1.5~1.7 倍となることを明らかにし、より多くの範囲を設計で考慮できる可能性を示した。また、ボイドスラブの場合も、通常スラブと同等かそれ以上の曲げ抵抗性能を有することを明らかにし、ボイドスラブも設計において通常スラブと同様の協力幅を用いてよいことを明らかにした。このように、本研究は実務設計に有用な知見を提供していることから、有用性・実用性が高い。また、ボイドスラブの場合には、施工時にボイドを成形する際に非構造材として用いる鉄筋が、実際には曲げ抵抗に寄与するために、通常スラブに比べて曲げ抵抗性が高くなったことを 3 次元非線形有限要素解析によって解明しており、本研究の成果は現象解明に大きく寄与している。また、論文の完成度から、応募者の本研究に対する理解度も十分に高いと判断できる。

以上から、本研究は「日本コンクリート工学会北海道支部優秀学生賞」に相応しいものである。

3. WANG MINGRUI「機械的活性化と CO₂ ナノバブル技術を用いた炭酸水素カルシウムの

合成および低カルシウムフライアッシュの炭酸化に関する研究」

(理由)

本研究は、低カルシウムフライアッシュを対象とし、機械的活性化処理と CO₂ ナノバブル技術を併用することで、殻廃棄物由来の Ca(HCO₃)₂ 水溶液を外部カルシウム源として用いた高効率炭酸化反応の可能性を検討したものである。

低カルシウムフライアッシュは単独では炭酸化反応が進行しにくく、これに対する炭酸化処理では、反応に必要な Ca²⁺ の供給量や CO₂ の溶解・拡散過程が制約となり、十分な反応効率が得られにくいことが課題とされていた。これを解決するため、高い CO₂ 溶解性および優れた物質移動特性を有する CO₂ ナノバブル水を CO₂ 供給源として反応系への導入、また、機械的活性化を併用することによってフライアッシュ

表面特性の変化による反応性向上を行っている。さらには、殻廃棄物由来の材料を用いて環境性にも配慮しており、本研究は、高い新規性、独創性を有する。

本研究の成果は、これまで困難だった、低カルシウムフライアッシュに対しても安定した炭酸化反応を成立させる手法が提案されていることから、有用性・実用性が高い。また液相中における CO₂ 供給挙動と炭酸化反応促進メカニズムについての体系的な検討から現象解明がなされており、材料工学および環境工学な見地から大きな成果を提供している。

以上から、本研究は「日本コンクリート工学会北海道支部優秀学生賞」に相応しいものであると考えられる。

令和8年2月25日

JCI 北海道支部優秀学生賞授賞審査委員会

委員長	北海道科学大学	深瀬 孝之
委員	北海学園大学	足立 裕介
委員	北海道大学	越川 武晃
委員	北海学園大学	高橋 良輔
委員	寒地土木研究所	吉田 行
委員長	苫小牧工業高等専門学校	渡辺 暁央

令和7年度 日本コンクリート工学会北海道支部功績賞

受賞者の選考結果報告

選考経過

日本コンクリート工学会北海道支部功績賞規定に基づいて、令和8年1月20日に候補者の推薦を締め切り、1名の推薦があった。これを受け日本コンクリート工学会北海道支部功績賞選考委員会において慎重に選考を行い、令和8年3月10日開催の委員会にて、推薦のあった以下の1名を受賞候補者として推薦することを決定した。受賞候補者氏名と推薦理由を以下に記す。

功績賞受賞者

吉野 伸一 (76歳)

現職：ジェイアール北海道エンジニアリング 株式会社 技術顧問

1971年3月 日本国有鉄道 中央鉄道学園大学課程土木科 卒業

受賞候補者は、1971年に日本国有鉄道中央鉄道学園大学課程土木科を卒業後、日本国有鉄道に入社した。国鉄分割民営化後は北海道旅客鉄道において、工事課長、工務技術センター所長、工務部長などを歴任し、北海道における鉄道インフラの整備・維持管理や技術開発に携わっている。2007年より北海道ジェイアール・コンサルタンツの専務取締役、代表取締役社長等を務め、2019年には北海道旅客鉄道新幹線工事事務部技術顧問およびジェイアール北海道エンジニアリング技術顧問として、長年にわたり北海道における鉄道技術の発展に寄与している。また日本コンクリート工学会の北海道支部での活動として、1993年度から2024年度まで支部執行委員を務めるとともに、コンクリート構造物の補強・補修、ひび割れ対策、混和材料などに関する各種研究委員会に参画してきた。さらにコンクリート工学年次大会（札幌）の実行委員会（2001年・2009年・2019年）や支部設立記念事業（10周年・20周年・30周年）の実行委員会等に携わり、支部活動の発展に大いに貢献した。加えて、これまでの研究・技術開発の成果により、日本鉄道施設協会協会賞（論文賞）（1985年）、プレストレストコンクリート技術協会賞（論文部門）（1985年）、日本鉄道施設協会技術賞（1996年）、同論文賞（2003年）など、多くの学協会賞を受賞しており、鉄道構造物の分野において高い評価を受けている。

以上より、受賞候補者は北海道におけるコンクリート工学の発展に大きく貢献したため、日本コンクリート工学会北海道支部功績賞受賞候補者に決定した。

日本コンクリート工学会北海道支部功績賞選考委員会

委員長 高瀬 裕也 室蘭工業大学大学院

委員 井上 雅弘 株式会社社長

委員 今村 晃久 株式会社開発工営社

委員 定木 紳 清水建設株式会社

委員 谷口 円 室蘭工業大学大学院

委員 渡辺 暁央 苫小牧工業高等専門学校